

令和6年度 広島県病害虫発生予察情報 技術情報第5号

令和6年9月6日（金）発表 広島県西部農業技術指導所

～トマト、ミニトマト等のナス科作物 トマトキバガの食害に注意～

県内で初めてトマトキバガによる農作物への食害が確認されました。食害はトマト及びミニトマトで確認されています。

トマトキバガが寄生するトマト等のナス科作物で食害を確認した場合、速やかに防除を行いましょう。

発生概況について

- (1) 令和4年9月、県北東部の施設栽培トマトほ場に設置したフェロモントラップにおいて、本県で未発生 of トマトキバガの発生を確認し、「令和4年度病害虫発生予察情報 特殊報第2号」を発表しています。以降、フェロモントラップへの誘殺は確認していましたが、これまで農作物への被害は確認されていませんでした。
- (2) 令和6年7月以降、県東部及び西部において、トマト及びミニトマトほ場で、トマトキバガによる食害が発生しました（写真1）。本虫による農作物への食害は県内で初確認となります。
- (3) 令和6年8月、食害が確認された一部の地域において、関係機関と共同で実施した調査の結果、生産者26戸当たり6戸で食害が確認されています。
- (4) フェロモントラップへの誘殺状況は、県北東部、中東部に加え、南部でも断続的に誘殺が確認されています（表1）。



写真1 トマトキバガによる食害（左：葉 右：果実）

表1 トマトキバガのフェロモントラップ誘殺確認状況（令和6年度）

調査地点	北東部	中東部	広島港周辺	福山港周辺	尾道糸崎港周辺
誘殺確認日	6月5日(1) 8月16日(3)	6月15日(1) 7月31日(2) 8月15日(1)	6月19日(2) 7月3日(3) 8月5日(1) 8月21日(3)	6月27日(3)	8月27日(8)

※誘殺確認日の（ ）内の数字は誘殺頭数を示す。令和6年8月末現在

※広島港周辺、福山港周辺及び尾道糸崎港周辺は農林水産省神戸植物防疫所による調査結果

形態および被害について

- (1) 成虫は翅を閉じた静止時で体長5～7mm（前翅長約5mm）です（写真2）。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在します。幼虫の体長は終齢で約8mm、体色は淡緑色～淡赤色、頭部は淡褐色です。前胸の背面後方に、細い黒色横帯があります（写真3）。
- (2) 幼虫は特に若い葉や生長点を好んで食害する傾向があり、生長点を食害されるとひどい時には芯が止まり枯れあがる場合があります。
- (3) トマト、なす、ピーマン、ぱれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物です。また、マメ科のいんげんまめも寄主植物として確認されています。
- (4) トマトの茎葉では、内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成されます。葉の食害は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となります。本虫の食害は面状であり、ハモグリバエ類の線状の食害と区別できます（写真4、5）。果実では、表面に数mm程度の穴を空けて幼虫が侵入します。病原菌が二次的に感染して腐敗する場合もあるため、果実品質が著しく低下します。



写真2 トマトキバガ成虫

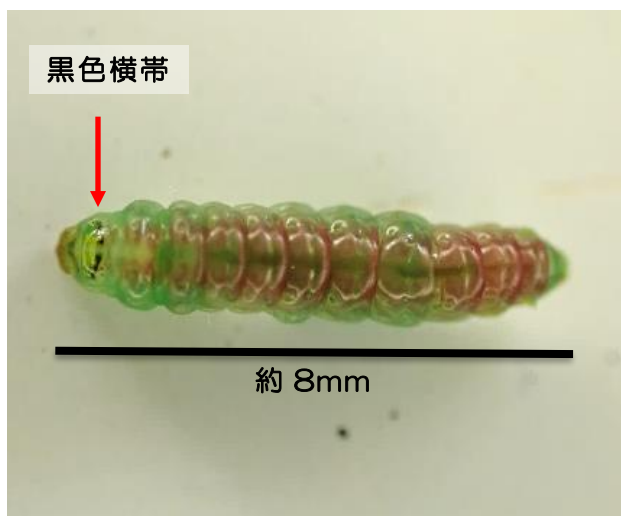


写真3 トマトキバガ幼虫

(参考) トマトキバガとハモグリバエ類の食害の比較

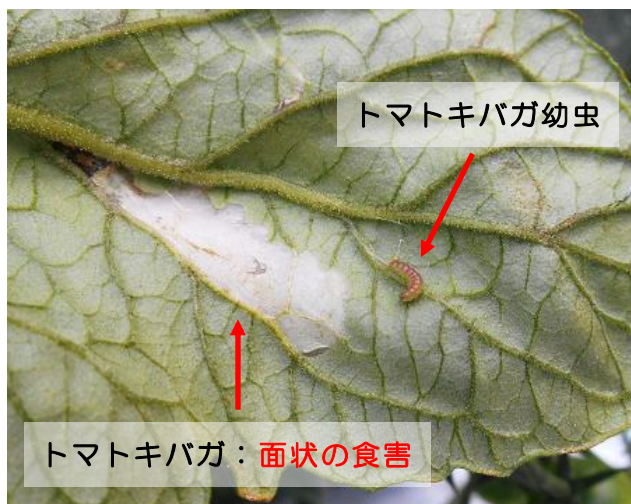


写真4 トマトキバガによる葉の食害と幼虫



写真5 ハモグリバエ類による葉の食害

防除対策について

- (1) 施設栽培では、開口部に防虫ネット（目合い1mm以下）を設置し、侵入を防止しましょう。
- (2) 本虫は繁殖力が高いため、ほ場をよく見回り、食害が見られたら速やかにトマトキバガに適用のある薬剤で防除しましょう（表1）。
- (3) 海外では、薬剤抵抗性の発達が報告されていることから、系統の異なる薬剤（IRACコードが異なる薬剤）のローテーション散布を行いましょう。
- (4) 本虫は、茎葉、がく片及び未成熟果に産卵するため、不要な葉やわき芽は除去しましょう。
- (5) 食害された葉や果実は、土中深くに埋めるか、ビニール袋等に密封して死滅させた後、適切に廃棄しましょう。

表2 トマトキバガ登録農薬一覧（令和6年9月2日時点）

農薬名	適用作物名		IRAC コード	使用時期	希釈倍数 ・使用量	使用方法	使用回数
	トマト	ミニトマト					
ディアナSC	○	○	5	収穫前日まで	2500～5000倍	散布	2回以内
ラディアントSC	○	○		収穫前日まで	2500～5000倍	散布	2回以内
ダブルシューターSE	○	○		収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内
アフーム乳剤	○	○	6	収穫前日まで	2000倍	散布	5回以内
アグリメック	○	×		収穫前日まで	500～1000倍	散布	3回以内
アニキ乳剤	○	○		収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
エスマルクDF	○	○	11A	発生初期但し、 収穫前日まで	1000倍	散布	—
コテツフロアブル	○	○	13	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
トルネードエースDF	○	×	22A	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
ファイントリムDF	○	×		収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
アクセルフロアブル	○	○	22B	収穫前日まで	1000倍	散布	3回以内
ベネビアOD	○	○	28	収穫前日まで	2000倍	散布	3回以内
ベリマークSC	○	○		育苗期後半 ～定植当日	400株 あたり25ml	灌注	1回
プリロッソ粒剤	○	○		育苗期後半 ～定植時	2g/株	株本散布	1回
プリロッソ粒剤オメガ	○	○		育苗期後半 ～定植時	2g/株	株本散布	1回
フェニックス顆粒水和剤	○	○		収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
ヨーバルフロアブル	○	○		収穫前日まで	2500倍	散布	3回以内
グレーシア乳剤	○	○	30	収穫前日まで	2000倍	散布	2回以内
プレオフロアブル	○	○	UN	収穫前日まで	1000倍	散布	2回以内

● お問い合わせ先

広島県西部農業技術指導所 植物防疫チーム

〒739-0151

東広島市八本松町原 6869

TEL：082-420-9662（直通）

ひろしま病害虫情報

(<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/byogaichu/>)

